

文学的文章の授業づくり(その2)

「単元構想シート」の作成

次は、(その1)で確認した「10の視点」を活かして、「単元構想シート」を作成しましょう。
 「単元構想シート」とは、児童生徒の実態や身に付けさせたい資質・能力から言語活動を設定し、指導計画を作成するためのシートです。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた第1歩です。



「単元構想シート」の作成手順

- ①本単元で身に付けさせたい資質・能力を設定する
 - ・「資質・能力」とは「学習指導要領の指導事項」そのものです。
- ②児童生徒の実態を捉える
- ③教材文を決定する
- ④単元に合った言語活動を設定する
 - ・国語科において、話す・聞く、書く、読む活動すべてが言語活動です。「何を」「どのように」話したり、書いたり、読んだりさせるのか、教師が明確な意図を持って設定することが重要です。
 - ・身に付けさせたい資質・能力を育成するのに適した言語活動になっているかを吟味します。
 - ・言語活動を行うために必要となる「知識及び技能」を明確にし、課題解決の中で繰り返し学習しながら身に付けさせていきます。
- ⑤指導計画を作成する際の留意点
 - 〈第1次〉
 - ・視点を与えて初発の感想を書かせることで、課題や言語活動を設定しやすくなります。
 - 〈第2次〉
 - ・「10の視点」を基にして、第2次の指導計画を作成します。物語の設定、主な出来事、中心人物の「はじめの気持ち」、山場の場面での中心人物の気持ちの変化などを叙述を根拠にして読み取らせます。
 - 〈第3次〉
 - ・言語活動を通して思考力、判断力、表現力を育成します。言語活動に粘り強く取り組んでいる姿を「主体的に学習に取り組む態度」として評価します。

単元構想シート				
本単元で身に付けさせたい資質・能力		児童の実態		
<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物の行動や気持ちを叙述を基に捉える。(C-①-イ) ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像する。(C-①-エ) ○文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えを持つ。(C-①-オ) ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにする。(1-①-オ) 		←		
教材文(並行読書等も含む)				
「ごんぎつね」 新美南吉作品				
単元に合った言語活動				
登場人物の気持ちの変化について叙述を基に感想を書く。				
指導計画(総時数12時間)				
次	時	学習活動	・主発問 ○活動	「10の視点」の課題
1	1	①感想をもとに学習課題を設定し、学習計画を立てる。言語活動を設定する。	・この物語を読んで心に残ったことはどんなことですか。	
		②物語の設定を捉える。	○時と場所、主な出来事を捉える。	A①④
2	8	③登場人物の言動や情景から、人物の性格や境遇、気持ちを考える。	・ごんはどんなきつねですか。	A②③ B⑤
		④事件の発端での中心人物の気持ちを考える。	・ごんの気持ちが大きく変わったのはどこですか。	C⑦
		⑤⑥兵十にくりやまつたけを持ってごんの気持ちを考える。	・ごんはどんな気持ちでくりやまつたけを持って行ったのですか。	C⑧
		⑦ごんを火なわじゅうでうった兵十の気持ちを考える。	・兵十はどんな気持ちでごんをうちましたか。	C⑨
		⑧中心人物の気持ちの変化を考える。	・最後の場面でのごんと兵十はどんなことを考えていますか。	B⑥
		⑨作品が語りかけてくることを捉える。	・一番心に残った文はどれですか。	D⑩
3	3	⑩⑪登場人物の気持ちの変化や情景描写の特徴などについて感想を書く。	○登場人物の気持ちの変化と一番心に残った文を結びつけながら感想を書く。	B⑤⑥ C⑨ D⑩
		⑫感想を互いに読み合うことを通じて交流を回り、作品に対する自分の考えを深める。		

単元構想シートの例(小学校)

「10の視点」を活用した教材研究を基に「単元構想シート」を作成することで、児童生徒に読み取らせたい内容が明確になり、場面ごとの読み取りから脱却した、「全体読み」を取り入れた指導計画が作成しやすくなります。

